

やまどり

俳人協会
群馬県支部
☆
発行所
高崎市飯塚町737
TEL027-361-0870

第三回県支部総会を開催

俳人協会群馬県支部の2020年総

会が2月16日、前橋市古市町の上毛新聞社上毛ホールで開催され、会員約60人が参加した。新年度の予算と事業計画及び役員改選などについて支部役員が説明したあと審議、満場一致で承認された。

支部総会承認議事・新役員

事業報告	事務局長	武藤 洋一
会計報告	会 計	藤本志つ香
監査報告	会計監査	金子 笑子
	会計監査	林 恵美子
予算案	会 計	藤本志つ香
事業計画	事務局長	武藤 洋一

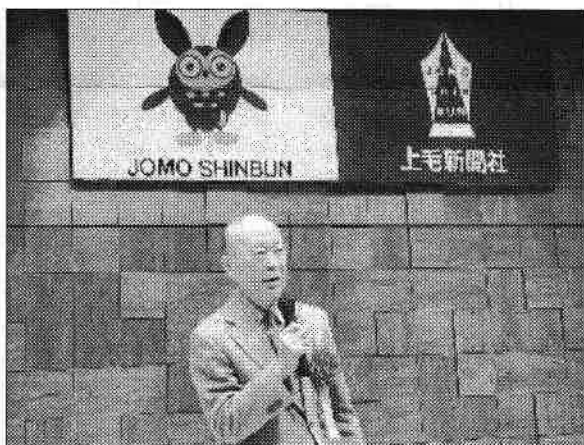
〔役員改選〕

支部長(再任)・原田清正 副支部長・
(再任) 宮崎至夏子 事務局長(再任)・
武藤洋一 会計(転任)・林恵美子 幹
事長(新任)・大塚洋二 監査(再任)・
金子笑子 監査(新任)・木下涼薫

第二部講演会

「群馬と富安風生」

総会につづき、伊東壺俳人協会理事を講師に迎え「群馬と富安風生」と題して講演会を開催した。群馬にかかわる風生作品を取り上げくわしく解説をされ、また高崎出身の村上鬼城の境遇なども紹介し聴衆を魅了した。(写真は講演中の伊東理事)



県支部会員(6月30日現在)

蟻川玄秋 石井昭子 井田なつえ 市村一
江 岩崎安江 馬上絹代 永塩菊江 大澤
文字 大谷孝子 大塚洋二 小木矩子 荻
原葉月 小野塚登子 柿沼あい子 加藤周
子 金子笑子 金子禮子 川原茂野 河
本松江 岸和代 北爪武夫 北原東洋男
北村由美子 木下涼薫 木村恵里子 小
菅さと子 小曾根俊美 小林悦子 小林和
子 斎藤博文 酒井富子 佐々木美恵子
佐藤美智子 須賀静子 須川良子 鈴木乘
風 善養寺玲子 高橋栄子 高橋富子 高
橋洋一 高嶺京子 珍田千代子 角田はる
子 中村明子 永山比沙子 南雲悦子

令和2年度紙上俳句大会 成績発表

上毛新聞社賞(賞状・記念品)1名
深谷 信郎(吉岡町)

県支部長賞(賞状・記念品)1名
深谷 征子(吉岡町)

特選(賞状・記念品)3名
堀 越 純(高崎市) 小林 悦子(高崎市)
酒 井 富子(みなかみ市)

佳作(記念品)若干名
柳井恵康(前橋市) 星野光子(片品村)
高橋栄子(前橋市) 星野よう子(片品村)
小林和子(吉岡町) 深谷征子(吉岡町)
木村恵里子(大泉町) 小林悦子(高崎市)

南雲節子 野口淳一 羽鳥正子 濱名博
光 林恵美子 原田清正 深谷信郎 深谷
征子 星照子 星野よう子 星野英子
星野令子 堀越純 篤正登志 宮崎至夏子
武藤ふみ江 武藤洋一 森田都志栄 柳
井恵康 矢野間稲霧 矢野間妙子 山賀春
江 山谷三千江 吉澤章子 吉沢美智子
吉藤青楊 吉藤淳子 弥城節子

俳人協会群馬県支部入会希望の方は年
会費2000円を県支部あてお送りくだ
さい。会員の方には会報「やまどり」の
送付のほか句会案内、行事、イベント等
のご案内をさせていただきます。また希望の
方には条件により本部会員への推薦もい
たします。

令和2年度

県支部俳句大会詠草

1	鈴蘭や風に微かな音こぼす 外出の自肅縁なく耕せり 福寿草つぼむ力に伸ぶ命	柳井 恵康
2	聖五月母の介護を生甲斐に 老い忘るスポーツウエア更衣 余生とても光八方みどりの日	林 恵美子
3	子供居ぬ寂しさ花火そつと買 罪の無い曲り胡瓜に我重ね 向日葵へ畑の腰が伸びるなり	湯本 良江
4	太公望若魚を狙ふ細濁 八木節や名に負ふ節の盆踊 生身魂言はれ八月十五日	増野 洋
5	風に舞ひほぐれ分れし柳絮かな つんつんと競いて伸びし葱坊主 外出の自肅続くや鉄線花	佐藤 ヒナ
6	一抹の翳り生徒に五月憂し いつ齧れる避病の籠もり夏霞 つばめの仔産毛を嘴に伸びあがる	北爪 武夫
7	木漏れ目を豊かに森の立夏かな 初夏や世に從へば旅ならず 青年の日傘目深にすれ違ふ	小堺 政彦
8	暑さ急出番なく春衣吊るされて 成り行きに任す余生や夏は来ぬ 草引けばそはで声はる青蛙	高橋 富子
9	剪定の缺の音に目覚めけり 夏帽子小瓶につめる星の砂 夕焼や一番星の見ゆる町	濱名 博光
10	駆け下りる子等の手に手に花大根 淵に来て古利なつかしえぞすみれ よく見れば狸々袴紅もたぐ	山賀 春江
11	もう八十また八十と青き踏む クレソンの小川そのまま母の里 揚雲雀とほくに聞こゆ父の声	星野 光子
12	切株にかたまり咲けり山すみれ 東風吹くや杉の林の軋みあふ 白木蓮湖を灯せり殉難碑	善養寺玲子
13	黄金週菩薩もこもるウイルス禍 屈まりつ羨道出つや若葉風 ネモフィラの果てはあを青風わたる	石井 昭子
14	菜の花やどの畑も継ぐ子のなくて 咲き初めしリラの枝先鴨鳴けり 糸さくら石垣高く反り返る	南雲 節子
15	葉柳や橋で落合ふおすそ分け 光林のあやめ咲かかにとある家に 試歩の径蛇のうたたね覚ましをり	川原 茂野
16	父の居た窓辺に咲けり藤の花 乗り継ぎて母見舞ひけりカーネーション 夏場所の中止に泣けり相撲ファン	高橋 栄子
17	裸婦像の森に寂びけり濃山吹 老いてなほ共に現役畑を打つ 高らかに画眉鳥うたふ立夏かな	小菅さと子
18	薔薇垣根過ぎてより風香り来る つちふるや哀楽分かつ山隠し 葉桜や夢見し朝の独りこつ	柿沼あい子
19	瀬音鳴る遊歩道行く五月かな 髪を切りうなじさやかか風五月 堂々たる捕はれの身の女王蜂	須賀 静子
20	恙がなき八十八夜の誕生日 池の面にひとつばたこの落花急	永田 しげ
21	薫風や北に梶切る養蜂車 新しき詩の友加え文月なる ふるさとの歌がしんがり年忘れ	矢野間稲霧
22	薫風やコロナウイルス吹きとばせ 外に出てみどりいっぱい昭和の日 そぞろ行く湯畑の湯気おぼるなり	矢野間妙子
23	休みぬて春耕一人ほつちなり みどりより生まれたる白山法師 坂道を駆け上がりくる裸足かな	金子 笑子
24	山麓に麦熟れ星の見ゆる頃 読み止しのページをめくる薔薇の風 魚板打つ茅花流しのたつ寺領	堀越 純
25	名札立て一人に余る種を蒔く 笑ふ山映す八ツ場やダム始動 山笑ふ兄弟姉妹みな老いて	岩寄 妥江
26	オンラインの俄百姓田を植うる 鳩鴉老鶯啼けり町しじま 青田風下校の子らを追ひかける	蟻川 玄秋
27	落ちさうで落ちぬ夕日や下萌ゆる 新葉をわれも待つなり春の雪 卒業を祝ふ夕餉の手巻鮎	金子 禎子
28	老いて尚土と生活春耕す 木の芽風休校の窓通り抜け 春炬燵遊び疲れし子が眠る	佐々木美恵子
29	晴天下草に伽羅露と握り飯 百日の土の繋りをクロッカス 耕しの千筋の先浅間山	北原東洋男
30	若葉風兄弟の名は太郎次郎 尺岩魚格闘の痕釣師にも 振花も守備につきたり外野陣	武藤 洋一
31	春の雪どかんと積もりさつと消ゆ 北窓を開けば近し武尊山 ランドセル背負ふ子居らぬ過疎の村	星野よう子

42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	
薔薇一輪活けて淋しき飲食店	雉子の鳴く夕べ荒ぶる聖五月 黒文字の花でんでんと緑化園 光背の白のひときは水芭蕉 天空に向かひ咲き継ぐ鉄線花 爪草や新樹の零す陽を浴びて	ピカソより上手に描けてチューリップ 花の塵わつて首出すかいつぶり	なはとびの十まで出来て柿若葉 父と子のポート追ひかけ春の鴨 休校の庭を飛び交ふ夕燕 せせらぎの音にひたりつ若葉道	換気窓開けるやいなや雀蜂 休校の学園通り水木咲く	母の日や寂聴もらす母の悔い 弥撒終へし人に巢鴉声ひそめ 換気窓開けるやいなや雀蜂	白雲木咲けり歯並び細やかに 風五月集ひし友よ古ギター	私が手術経過観察なりし春 コロナ禍の温泉の町閉さず猫の恋 子尺蠖水かげろふの葉にまぎれ 稚児百合や万葉歌碑へつづく道	一泊の術前検査春寒し 平穩の世が幸やいぬふぐり	夏落葉箒に去年の蟬のから 菖蒲の湯昭和にもどる匂ひかな	閉門の園より薔薇の匂ひたつ 囀や百の名ならぶ疎開の碑 夏落葉箒に去年の蟬のから	こもり居て終活始む聖五月 木洩れ日に瞑想つづく蠅草 草叢となりし畑や雉子鳴く 湖の水面すれすれ夏燕 鳩鳴くや堤のなぞへ金銀花
黛 正登志	木村恵里子	深谷 信郎	深谷 征子	永山比沙子	高嶺 京子	市村 二江	山谷三千江	永塩 菊江	須川 良子	小林 和子	
53	52	51	50	48	48	47	46	45	44	43	
菫蕪植う背の丸みの母に似て	小刻みに揺るる木洩れ日ほととぎす 牛井屋の軒にすくすく燕の子 大利根の風に柳絮の飛び立てり 城あとの畑に整秩薯の花	表撫子友亡き庭を灯しけり 燕来る軒端に風呂を据えし頃 雉子啼くや休みつつ降る山桜	美しき文字ならぶ句帳や風光る 母の日のりぼんを結ぶマダム・ジュジュ 杖つきて見廻る雨後の苗畑	断腸出つ大樹の陰の穴薬師 学舎に子らのこゑなし揚雲雀	フエルメールの目差し乙女春愁ひ 糴や赤城裾野の風の脚	黄金週ひとり気儘に種を蒔く 巢立ち日雀三羽の並ぶ網代垣	燕来る見上ぐる日々が始まれり 早口は我が家の遺伝つばくらめ むささびの浮かれ出づるよ花おぼろ 五十肩すつかり忘れ草筆る	誰が住むぞ白はらの垣閉する窓 薔薇の園花がら摘むる非情の日 きみどりにうすもいるに木の芽吹く	落葉松を行くや芽吹き谷深し 点描の峽に深入り花卯つ木	雨後の雲低くたなびく麦の秋 鰻焼くかをる川風渡舟口 夏の日や訛なつかし山泊り	
角田はる子	大谷 孝子	北村由美子	吉沢美智子	吉藤 淳子	宮崎至夏子	大澤 文子	吉澤 章子	弥城 節子	鈴木 乗風	吉藤 青楊	
64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	
花を植う土を起こせば椋鳥の雛 昼を鳴くステイホームの雨蛙	名残の月名残の雪や赤城山 アーチのやうな木の間子雀通る	蜘蛛の囀の雫は姫のティアラかな ひこばえとブルーインプレスのパワー	螢飛ぶ水も空気も澄みし里 一家して畦にお茶飲む田植かな	純白は強し梔子咲き初むる 朝毎の声立つ鳥や柿若葉	花筏戸毎橋ある城下町 水音に影を崩さず座禪草	五月晴目肅の眼膚にす 三密の言葉を胸に菖蒲月	一穢なき空を高舞ふ青鷹 楠落葉鎮守の庭に子の遊ぶ	満開の花の下にて手を洗ふ 門前に猫の待れる涅槃かな	老鶯や亡夫の背広の包みボタン 花は葉に髭濃き農夫結婚する	こしかけて琴弾く埴輪柳絮舞ふ 馬鈴薯掘る腰の持病をつい忘れ 帰省子とまちがはれたり電話口 穠田に水神様の祠かな	
原田 清正	星野 令子	馬上 絹代	酒井 富子	佐藤美智子	小林 悦子	野口志げ子	中村 明子	珍田千代子	加藤 周子	大塚 洋二	

県支部俳句大会

選考経過

令和2年度の県支部俳句大会は7月5日に上毛新聞社上毛ホールで開催を予定していたが新型コロナウイルス感染拡大予防のため本紙上(2、3面)にての開催となった。応募194句の作品を作者無記名で印刷。別記7名の選者に郵送し、選者各々10句を選んでいただいた。その結果は左記の明細表のとおり。

上毛新聞社は選者4名の推薦を得た「ピカソより上手に描けてチューリップ」に、支部長賞には選者3名の推薦を得た「父と子のポート追ひかけ春の鴨」に、特選3句は同じく選者3名の推薦を得た「読み止しのページをめくる薔薇の風」「花筏戸毎橋ある城下町」「一家して蛙

選者推薦明細表

作品No.	1句目	2句目	3句目
1	2		
7	1	1	1
8		1	
11	2	1	
12			1
13	1		
14			1
15			1
16	2		
17		1	
21			1
23		2	1
24		3	
26			1
28			1
29			1
31	2	1	
32		1	2
34		1	
36			1
37			1
38	1	1	
39	2	3	1
40		4	
41			2
46	1		1
47	1		
48			1
51	1		1
52		1	
53	1		
56	1		
57		1	
59	3	2	1
60		1	
61	3		
62	1		

にお茶飲む田植かな」、佳作は2名の選者から推薦を得た8句に決定した。なお、選者には受賞を辞退していただいた。

【選者】原田清正、宮崎至夏子、

武藤洋一、大塚洋二、林恵美子、金子笑子、木下涼薫

トビックス

第30回全国ふきわれ俳句大会(実行委員長・金子笑子)が今年も開催される。吹割溪谷や沼田市の風物を詠んだ俳句を募集、投句料2句1組1000円、締切日は7月31日(金)当日消印有効。詳しい募集要項や投句用紙の請求は沼田市教育委員会利根公民館『全国ふきわれ俳句大会実行委員会』事務局まで。電話0278-56-2111。表彰式は10月18日(日)沼田市利根保健福祉センターで

開催される。

こらむ・したりお

「店頭からマスクが消えた」。初めのうちはニュースになったが、コロナウイルスの感染拡大に伴って、多くの店が「入荷予定はありません」という張り紙を掲示。さらに、ハンドソープがなくなり、トイレトーパーまで姿を消した。間もなく棚に並んだが、マスクの品薄は長期にわたり、「品薄って薄いマスクのことですか?」という頓珍漢なことを聞く人までいたという▼影響は食品にもおよび、スパゲティやホットケーキの材料がなくなった。休校で家にいる子どもたちの食事を工夫することだろう。飲食店の多くはテイクアウトを始めた。「弁当」といった方がうまそうに感じるのだが、若い世代はそうでないらしい。洋食系の店なら作りやすいだろうが、麺類の店にも「お持ち帰りOK」ののぼり旗が▼影響は思わぬところにもあった。毎年五月の連休にナス、キュウリ、トマトなどの夏野菜を植えるのだが、今年は違った。どこの畑を見ても四月中旬ごろから

植え始めていた。苗を売る店も早い動きに驚いていた様子。「出掛けることができないから、畑仕事でもしようと思って」というのが本音のようだ。周囲の畑を気にしながら、例年通り、ゴールデンウィークに植栽完了。何とか立夏前に作業を終えた▼しかし、今年は外出がままならず、手足にギプスをはめられたような気分だ。初花、花筏、辛夷、三桠といった好きな季語を使うことなく季節は移り、「行く春や」に何とか間に合った。鶯の「ホーホケキョ」は聞いたが、山歩きをしていないため駒鳥、大瑠璃、時鳥、郭公といった美声を聞いていない。今年は畑に精を出し「農耕接触者」になろう。(M)

俳人協会9月15日「第59回全国俳句大会」朝日ホール、「第27回俳句大賞」は新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止となりました。



県鳥・やまどり